

# 3人4脚



R2. 9/4(金) 第6号  
二宮西中学校学校だより  
発行者:和田 智司

## 笑顔と元気な声が学校に戻ってきました。

～子どもたちと一緒に「いのち」についての理解をより一層深めていきたいと考えています～

例年より短い夏休みが終わり、2学期が始まりました。まだまだ暑い日が続いています。

また、新型コロナウイルス感染症が再び広がりを見せる中ですが、子どもたちの笑顔と元気な声が学校に戻ってきました。夏季休業期間中は、保護者および地域の皆様には生徒たちを見守っていただきありがとうございました。2学期も1学期以上に素晴らしいものにしていききたいと思います。

さて1学期は、授業数の確保のため道德の授業が十分にできませんでした。2学期は昨年度から行ってきた「いのちの教育」により一層取り組んでいきたいと考えています。夏休みの道德の課題として全校生徒に『いのちについて考える』という宿題をお願いしました。

生徒は、自分で選んだ「命」や「生命の尊さ」について考えさせられた新聞記事・投書を読んでその記事を選んだ理由を交えながら、自分の意見や感想を書きました。ご家族の方には、お子さんが書いたことに対して、意見や感想のご記入のご協力いただきましてありがとうございました。全校生徒のものを全て読み、まとめたものを教材として、この2学期に子どもたちと一緒に「いのち」についての理解をより一層深めていきたいと考えています。

まだまだ計画段階ですが、「いのち」について実感を伴った深い学びができるような授業をまずは私自身が実践したいと思っております。



## ◆『微笑み』～人に優しく接する人であるために～

### 『微笑み』

|             |            |
|-------------|------------|
| どのような苦しみにも  | 温かい微笑みを    |
| どのような悲しみにも  | 明るい微笑みを    |
| どのような恐れにも   | たじろがない微笑みを |
| どのような不安にも   | 和やかな微笑みを   |
| どのような誤解にも   | 思いやりの微笑みを  |
| どのような憎しみにも  | やわらぎの微笑みを  |
| どのような冷たい目にも | 親しい微笑みを    |
| どのような裏切りにも  | 黙って微笑みを    |

左の詩は、愛知県のある中学校の校長先生からご紹介いただいた詩です。河野進さんという詩人の作品です。人が生きていく中で、様々な困難に出会います。人の関係の中で苦悩することもあります。そんな時に必要なものが「微笑み」、つまり優しさです。

人に寄り添うことで、お互いが気持ちよく生きていくことができます。人を攻撃した

り、SNS等で批判や誹謗中傷しても何の解決にもなりません。悲しいことでしかありません。このコロナ禍の中で、感染者や医療従事者等への嫌がらせやハラスメントが起きています。

残念なことに、日本の各地で感染者に対する噂を流したり、不安をあおったりするような言動が起きています。感染症だけでなく、普段の生活の中でも「いじめ」は決して許されるものではありません。この2学期は、この詩にあるような「微笑み」がいっぱいの二宮西中であってほしいと願っています。【河野進…玉島教会において牧師となる。通称「玉島の良寛さま」】

## 新型コロナウイルスに負けないために

### ◆第1の感染症「病気」を防ぐ！

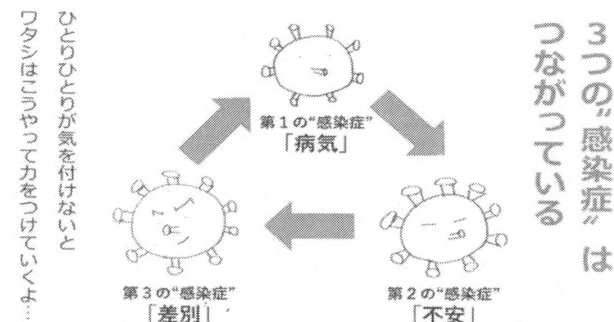
一人ひとりが衛生行動を徹底しましょう。「手洗い」「咳エチケット」「人混みを避ける」など、ウイルスに立ち向かうための行動を自分のためだけでなく周りの人のためにもすることが大切です。

### ◆第2の感染症「不安」に振りまわされない！

不安や恐れは、私たちの気づく力、聴く力、自分を支える力を弱めます。不安や恐れは身を守るために必要な感情ですが、私たちから力を奪い、冷静な対応ができなくなることもあります。病気を防ぐために十分注意することは大切ですが、必要以上に怖がる必要はありません。仮に感染したとしても正しく対応すればよいのです。過度な心配は不要です。不安な気持ちは誰しもが持っています。

### ◆第3の感染症「差別」を防ぐ！

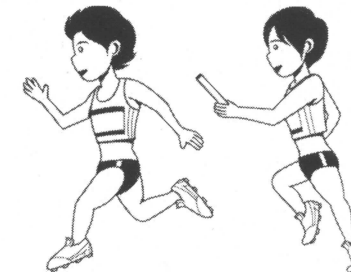
不安をあおることは病気に対する偏見や差別を強めます。不確かな情報は広めないようにしましょう。また、差別的な言動に同調しないようにしましょう。



※8月25日に羽生田文部科学大臣より「新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて」のメッセージが発表されました。P. 3～4に紹介させていただきます。

## 3年間頑張りました。1・2年生へバトンが引き継がれました。

吹奏楽部、美術部は10月頃になりますが、運動部ではすでに下級生へとバトンが引き継がれました。新型コロナウイルス感染症拡大により残念ながら中体連関係の大会が中止となったため、中郡での代替大会（お別れ試合）となりました。ブロック大会、県大会、それ以上の大会への出場を目指してきた3年生にとっては、やるせない思いが大きいと思います。しかし、試合に臨んでいた本校の生徒の表情はとても清々しく、仲間とのプレーを楽しんでいました。



今週末のソフトテニス皮切りに各会場にて中郡新人戦大会が行われます。コロナ禍のため色々と制約もありますが、本当の意味での勝利を目指して頑張ってください。

## 修学旅行の実施を決定いたしました。

先日はお忙しい中、修学旅行保護者説明会にご参加いただきましてありがとうございました。各家庭で話し合い、欠席の判断をされた方もいらっしゃいましたので、大変重く、苦しい判断となりましたが、多くの方から「参加同意書」をいただきましたので、学校で話し合い修学旅行の実施を決定いたしました。何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

なお、説明会でお伝えしましたように、今後の感染状況によっては延期または中止の判断をいたします。重ねてご理解を賜りますようお願い申し上げます。

## 「あつまれニワニシくんの森」の愛称で開室しました！

8/25(火)に配付しました「学習相談室を開室します」の文書にてすでにお伝えしましたが、神奈川県「学習指導員」の制度を活用し、「あつまれニワニシくんの森」の愛称で開室しました。丁寧に説明を聞きたい課題、一人でやるのは難しい宿題、ICTを活用した調べ学習、学習方法の相談など一人ひとりのニーズに応えた学習相談を行います。講師は、高橋雅子（たかはしまさこ）先生と久保寺駿（くぼてらはやと）先生です。・・・多くの生徒たちに活用して欲しいと願っています。

あつまれニワニシくんの森



## 児童生徒等や学生の皆さんへ

新型コロナウイルスが広がってから、皆さんは、学校はどうなるのだろう、この先どうなるだろうと、不安だったのではないのでしょうか。新しい学期を迎えるに当たって、皆さんに伝えたいことがあります。

まず、感染症にかからないようにするには、いくつかの方法があります。すでに皆さんが取り組んでいるように、話をするときにはマスクをしたり、手を洗ったり、具合が悪い場合には学校を休んだりしてもらうことです。そして何より、健康的な生活を送ることが大切です。それでも、これまでも皆さんは風邪をひいたり、インフルエンザになったりしました。今はさらに新型コロナウイルスが課題になっています。

この三つは、症状がよく似ています。ですから、今後、皆さんの誰もがこうした症状を経験することがあるでしょう。具合が悪い人の中には、新型コロナウイルスに感染したと診断される人も身近な人の中から出るかもしれません。もちろん、それが友達だと分かったら自分は大丈夫かなと不安になることもあるでしょう。

新型コロナウイルスには誰もが感染する可能性があります。感染した人が悪いということではありません。学校やクラスの中で感染することは悪いことだという雰囲気ができしまうと、新型コロナウイルスに感染したと疑われることをおそれて、具合が悪くなくても、その後は言いだしにくくなったり、病院に行くのが遅くなったりしてしまいます。そうすると、さらに皆さんの地域で感染が広がってしまうかもしれません。

感染した人や症状のある人を責めるのではなく、思いやりの気持ちを持ち、感染した人たちが早く治るよう励まし、治って戻ってきたときには温かく迎えてほしいと思います。もし、自分が感染したり症状があったりしたら、友達にはどうしてほしいかということを考えて行動してほしいと思います。

すでに、感染した人達が心ない言葉をかけられたり、扱いをされたりしているという事例が起きています。こうしたことが皆さんの周りでも起きないように、皆さんにも協力してほしいのです。

また、高齢者や病気がちの人は、感染すると症状が重くなってしまう危険があります。自分は元気だから大丈夫ということではなく、そのような人たちに感染させることがないよう、思いやりの気持ちを持ってほしいと思います。

新型コロナウイルス感染症が広がり、皆さんの日々の生活は一変したと思います。以前のように、友達と会いにくくなり、スポーツや文化に触れる機会も少なくなり、将来への不安やストレスを抱えている人も多いでしょう。

これまでも、私たち人間は、新型コロナウイルスのような新しい病気を経験してきました。そのたびに、世界中の研究者が病気の原因を探り、予防方法を見つけたり、薬の開発をしたりしてきました。そして、私たちは、病気と共存していく。この歴史は繰り返されています。新型コロナウイルスも研究が進んで解明されれば、予防と治療ができるようになり、新たな共存生活が始まります。

私たち大人は、皆さんの応援団として、将来の見通しを持ち、未来の社会の担い手である皆さんが学ぶ機会、遊ぶ機会、交流する機会を最大限作っていきます。それまで、皆さんは今自分ができる予防をしっかり行い、将来の目標を持ち、家庭や学校で日々の学びを続けてほしいと願っています。

令和二年八月  
文部科学大臣 萩生田 光一

## 保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多いと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気が広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思います。

令和二年八月  
文部科学大臣 萩生田 光一